

2018年4月30日

パルシステム東京生活協同組合様

ペシャワール会

2002年9月のご支援以来、長きに亘り当会中村哲医師(現地事業体・PMS=ピース・ジャパン・メディカル・サービス)のアフガニスタンにおける活動にご理解と多大なるご支援を賜りまして、有難く厚く御礼申し上げます。

さて2017年度の現地プロジェクトの進捗状況を以下の通りご報告いたします。

お寄せいただきました組合員皆様からの平和カンパ1,366,830円は、以下の事業に有効に使わせていただきましたことをご報告しますとともに深く感謝申し上げます。

PMSは「緑の大地計画」を2020年までに計画地域の灌漑(安定灌漑面積16,500ha、裨益人口約65万人)を完成させ、モデルケースとして今後広域展開に取り組む予定です。日本側では、活動の今後20年の継続体制に向けてPMS・Japan(PMS支援室)を設置、今後の支援の基盤作りを進めています。

《2017年度プロジェクト報告》

1. 医療活動

2017年度は前年度に引き続き、PMSのアフガニスタン東部山岳無医地区ダラエヌールの診療所では24時間診療が維持されています。1991年に開設されたこの診療所では、一般診療に加え母子保健向上のため女性職員による妊産婦の保健指導にも力を入れ、ワクチン接種や結核治療も続けられています。国際救援組織がほとんど撤退する中、地域住民からの信頼を集めています。(年間診療数 約4.5万人)

2. 灌漑事業

2017年度は以下のとおり用水路の建設を手がけました。

〈マルワリードⅡ用水路の開通確認〉

2016年に着工したマルワリードⅡ用水路の、主幹水路4.9キロが2018年2月に試験通水されました。作業地であるコーティ、タラーン、カチャラ、ベラの各村は、繰り返し発生する洪水被害と渇水、湿地化による農地の荒廃で多くの村民がパキスタンに難民化していました。昨年からはそのパキスタンから強制送還された難民が激増する中、工事現場は雇用の受け皿ともなり、今後の農地回復が見込めるため地域住民に安心感を与えています。水路は今後、仕上げに向けて工事が進められます。

〈カマ第二堰の大改修〉

2012年にJICAとの共同事業によって竣工しましたが、地域住民への譲渡にあたって大規模な改修が行われました。改修されたカマ第二堰はPMS取水方式の中でも最も完成度が高く、またカマ地域は治安が良く、人の往来も頻繁なため、生きた取水施設のモデルとしても今後の普及効果が期待されています。

〈ガンベリ主幹排水路の完成—マルワリード I 用水路の実質完工〉

2003年3月に着工したマルワリード I 用水路の仕上げともいえるべきガンベリ主幹排水路の全工事が、2017年12月に終了しました。2016年3月から取組んだ、この排水路の完成により、シェイワ郡、シギ郡の湿地化していた荒地は耕作可能になりました。

今後PMSは湿害発生を危惧することなく、沙漠の開拓を行なうことができます。

3. 農業事業

2009年夏、マルワリード I 用水路が最終地のガンベリ沙漠に到達後、PMSは沙漠の開拓を始めました。試験農場として約230haを確保し、現在も開拓中です。開拓と同時に湿害対策として排水路の整備を開始しました。2014年までに約80キロの排水路網が築かれてきましたが、さらにガンベリに主幹排水路が必要となり、流域各村の利害調整後、2016年3月に着工し、2017年12月に全工事が終了しました。これでマルワリード I 用水路全体の実質的な仕上げとして耕作地の拡大が見込まれています。

ガンベリ試験農場では、果樹や穀類、野菜を中心に様々な生産が試みられ、畜産も拡大し、開墾が更に進んでいます。

(2017年度植樹数 28,323本、2003年3月からの累計では約930,000本)

4. 広域拡大を目指して

アフガニスタンで今なお進行する干ばつ対策として、洪水や渇水でも安定した水量がとれる『PMS取水方式』の広域拡大を目指しています。その中で鍵となる人材育成について、FAO(国連食糧農業機構)との連携で2016年にミラーンに着工した訓練所は、2017年11月に完成し、研修が始まりました。遠方からの訓練生を受入れるための宿泊施設も建設されました。

5. 中村哲医師、アフガニスタン大統領より勲章

訓練生向けの英文技術書がFAOを介してアフガニスタンのガニ大統領の目にとまり、熟読された大統領から中村哲医師が叙勲されました。大統領からの「私はアフガニスタンの問題のカギを探していた」「君の仕事がカギだ。会いたかった」との言葉は中村哲医師にとっても特別に嬉しいもので、PMS職員一同大きな励みになっております。協力の輪がさらに大きくなることが期待されます。

2018年度も引続き現状(大干ばつによる渇水と洪水の繰り返し)に即した取水システムの建設、流域住民による維持・管理を促進し、農業を核とした地域復興のモデルとして提示、同時にアフガニスタン各地での展開に向け、確実に地歩を築いていきたいと考えています。